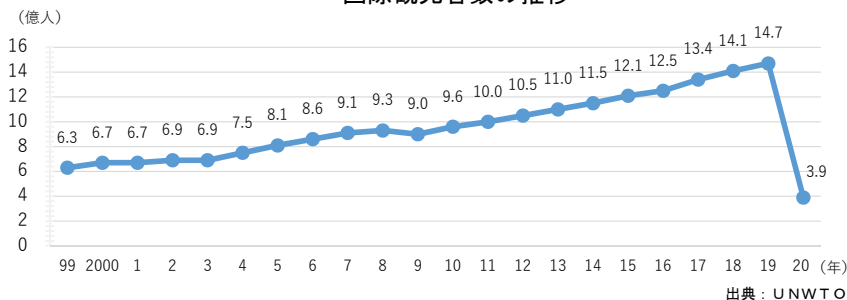


【参考】観光に関する各種のデータ

●新型コロナウイルス感染症の影響

- UNWTO（国連世界観光機関）によると、2010年以降10年連続で増加していた国際観光客数は、感染拡大防止のための渡航制限等により大きく減少し、観光産業に大きな影響を与えています。

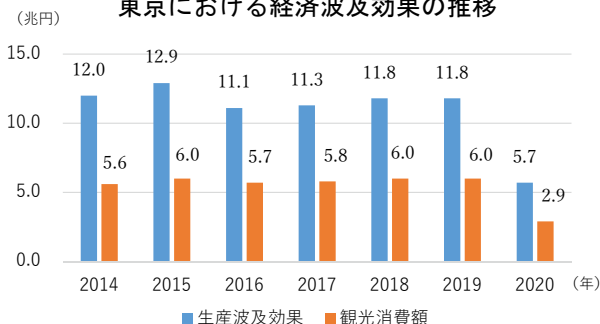
国際観光客数の推移



●観光消費の経済波及効果

- 観光産業の振興は、旅行者の観光消費を通じて幅広い産業に経済面の波及効果を生み出し、地域の活性化にも寄与します。
- 東京を訪れた旅行者数が最多となった2019年は、観光消費額が約6兆円となっており、他業種へ波及した額である生産波及効果は11.8兆円に達しています。

東京における経済波及効果の推移

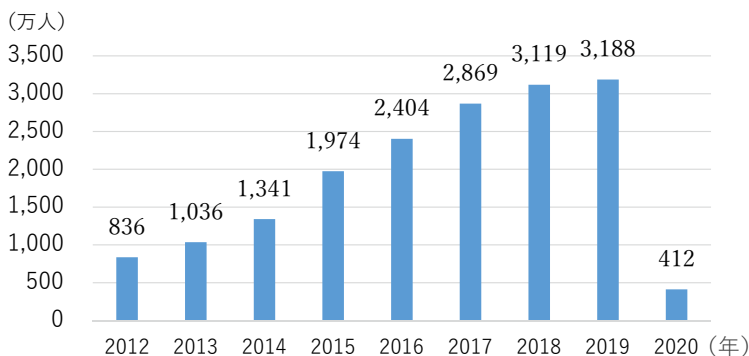


出典：「東京都観光客数等実態調査」（東京都）

●日本の観光

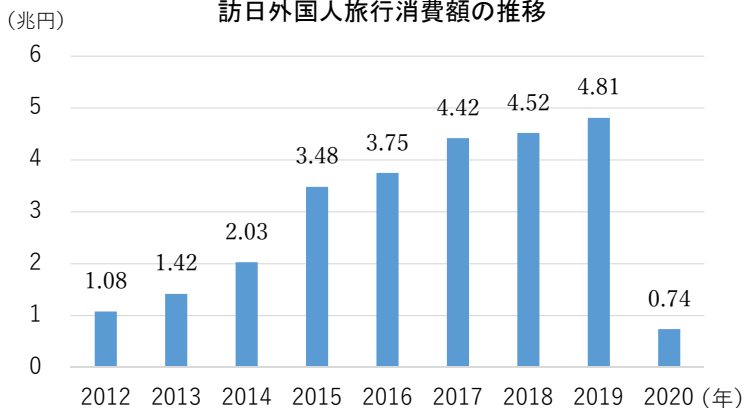
- 2020年の訪日外国人旅行者数は、前年比87%減の412万人となりました。また、訪日外国人旅行消費額は、前年比85%減の0.74兆円となり、いずれも大幅な落ち込みとなっています。

訪日外国人旅行者数の推移



出典：日本政府観光局 (JNTO)

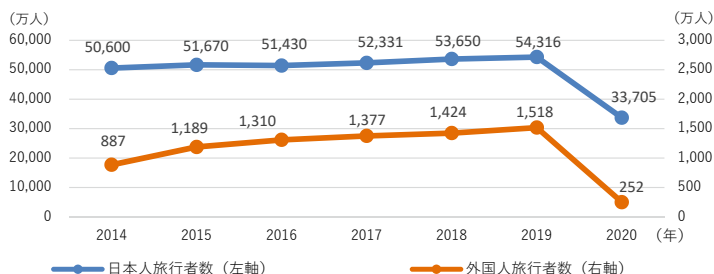
訪日外国人旅行消費額の推移



出典：日本政府観光局 (JNTO)

- 2020年の訪都外国人旅行者数が前年比83%減の252万人となりました。一方、訪都日本人旅行者数は、前年比38%減の約3.4億人となり、外国人旅行者と比較すると減少が抑えられています。消費額、宿泊者数も、同様の傾向で、前年比の減少幅が小さく、かつ全体に占める割合が高くなっています。

訪都外国人・日本人旅行者数の推移



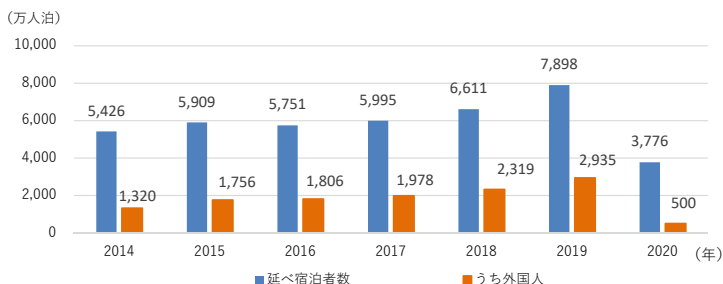
出典：「東京都観光客数等実態調査」（東京都）

訪都外国人・日本人旅行消費額の推移



出典：「東京都観光客数等実態調査」（東京都）

都内宿泊施設の延べ宿泊者数推移

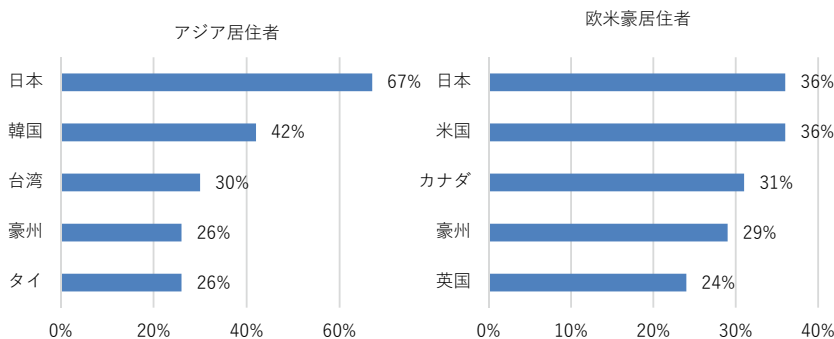


出典：「宿泊旅行統計調査」（観光庁）

●新型コロナ収束後の海外旅行意向

- ▶ コロナ禍においても、海外における新型コロナ収束後の海外旅行意向は高く、また、次に海外旅行したい国・地域では、日本がアジア・欧米豪のいずれでも高く、日本への期待は高まっています。

コロナ終息後に旅行したい国・地域



出典：(株)日本政策投資銀行・(公財)日本交通公社

- ▶ 富裕層向け旅行雑誌「Condé Nast Traveler (コンデ・ナスト・トラベラー)」が行った読者投票ランキング「Readers' Choice Awards 2021」の結果が2021年10月に発表され、東京は、米国版で2年振り、英国版では初めて「世界で最も魅力的な都市のランキング」において第1位に選ばれました。

読者投票ランキング「Readers' Choice Awards 2021」上位10都市

米国版ランキング

The Best Cities in the World

(Best Big Cities 部門) (米国を除く)

1位 (6位)	東京 (日本)
2位	大阪 (日本)
3位 (1位)	京都 (日本)
4位 (3位)	シンガポール
5位	イスタンブール (トルコ)
6位	メリダ (メキシコ)
7位	マラケシュ (モロッコ)
8位 (7位)	ポルト (ポルトガル)
9位	バンコク (タイ)
10位	ソウル (韓国)

※ () 内は、2020年の順位、-は昨年ランク外

英国版ランキング

Top 20 CITIES in the World

(英国を除く)

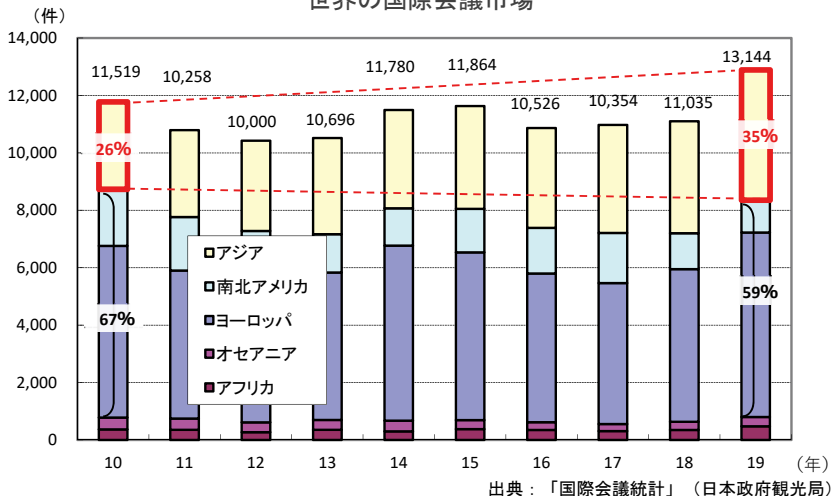
1位 (15位)	東京 (日本)
2位	大阪 (日本)
3位 (4位)	京都 (日本)
4位 (9位)	シンガポール
5位 (1位)	サン・ミゲル・デ・アジェンテ (メキシコ)
6位	イスタンブール (トルコ)
7位 (3位)	メリダ (メキシコ)
8位	マラケシュ (モロッコ)
9位 (18位)	ポルト (ポルトガル)
10位	アスペン (アメリカ合衆国)

資料：Condé Nast Traveler (コンデ・ナスト・トラベラー)

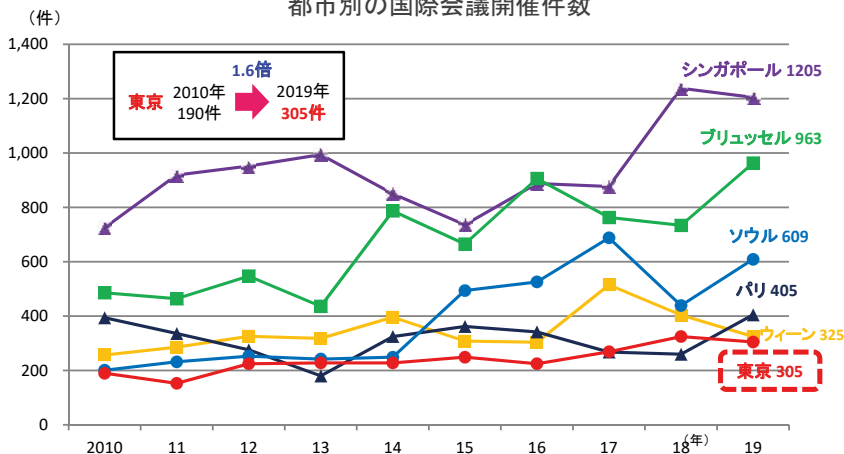
●世界の国際会議市場・開催件数

- 世界の国際会議市場に占めるアジア市場は、2010年の26%から10年後の2019年には35%と確実にシェアを伸ばしています。
- 東京での国際会議開催件数は、2010年の190件から、2019年には305件と増加するも、他都市の誘致も活発化しているため、順位の変動はありません。

世界の国際会議市場



都市別の国際会議開催件数



●国際会議の開催状況（2020年）

- ▶ コロナの影響により、国際会議の多くが延期となった一方で、オンラインやオンラインと実地開催を組み合わせたハイブリッドといった人の移動や集会を回避する開催方法による会議が増加しています。
- ▶ 2020年に日本で開催が予定されていた国際会議への新型コロナの影響について、オンラインは31%、ハイブリッドは4%となりました。

2020年に開催が予定されていた国際会議の件数と開催状況

地域	影響なし	オンライン	ハイブリッド	延期	開催地変更	中止	合計
欧州	344(7%)	1,423(30%)	48(1%)	2,231(47%)	30(1%)	630(13%)	4,706(56%)
アジア	187(12%)	378(25%)	80(5%)	628(42%)	29(2%)	199(13%)	1,501(18%)
(うち、日本)	30(10%)	97(31%)	12(4%)	126(41%)	5(2%)	39(13%)	309(4%)
北米	93(9%)	380(39%)	6(1%)	318(32%)	3(0%)	180(18%)	980(12%)
中南米	69(11%)	165(27%)	—	275(44%)	4(1%)	108(17%)	621(7%)
太平洋	26(10%)	69(27%)	4(2%)	103(40%)	5(2%)	52(20%)	259(3%)
アフリカ	26(11%)	63(26%)	4(2%)	122(50%)	—	31(13%)	246(3%)
中近東	18(19%)	28(29%)	1(1%)	37(38%)	2(2%)	11(11%)	97(1%)
合計	763(9%)	2,506(30%)	143(2%)	3,714(44%)	73(1%)	1,211(14%)	8,410(100%)

資料：「ICCA Statistics Report 2020」ICCA（国際会議協会）

